

## Ⅷ 文献

### [Ⅱ章]

- 1) 金森克浩.(2005).肢体不自由養護学校におけるアシスティブ・テクノロジーの普及状況に関する調査.日本教育工学会論文誌,29(Suppl.),9-12.
- 2) 金森克浩.(2012).携帯情報端末が特別支援教育を変える.〔実践〕特別支援教育とAT第2集.東京:明治図書.
- 3) 松本廣.(1994).肢体不自由教育におけるコンピュータの利用.特殊教育学研究,32(1),45-53.
- 4) 文部科学省.(2002).情報教育の実践と学校の情報化~「新情報教育に関する手引き」.  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/020706.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm)
- 5) 文部科学省.(2010).「教育の情報化に関する手引」について.  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm).2014.1.16.
- 6) 中原正治・末田統.(1988).言語のない障害児のためのコミュニケーションエイドの開発.第3回リハ工学カンファレンス講演論文集,279-286.
- 7) 奥英久・相良二郎・末田統・中原正治.(1989).パソコンを用いたザ・サウンズ・アンド・シンボルズによるコミュニケーション.電子情報通信学会技術研究報告,ET88(414),19-24.
- 8) 外山世志之・金森克浩.(2013).特別支援学校におけるAT (Assistive Technology : 支援技術) 活用に関する相談・支援の実践から見る今後のAT活用支援の在り方の検討.日本教育情報学会年会論文集 29.366-369.

### [Ⅳ章]

- 9) 大杉成喜(2009). 障害のある子どものためのアシスティブ・テクノロジー・コンシダレーション方法の開発.日本教育情報学会誌,25(3), 15-27.
- 10) The QIAT Consortium (Revised, 2005). Quality Indicators for Assistive Technology Services with QIAT Self-Evaluation Matrices. 専門研究 A 「障害の重度化と多様化に対応するアシスティブ・テクノロジーの活用と評価に関する研究」(2011)で翻訳. 国立特別支援教育総合研究所研究成果報告書.

### [Ⅴ章]

- 11) 中央教育審議会初等中等教育分科会 (2012). 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (報告) .p.41.
- 12) 国立特別支援教育総合研究所 (2011). 「特別支援学校における支援システムの充実に向けた総合的研究ー特別支援教育体制の取組の状況とその改善に向けた課題に関する調査研究ー (研究代表者=松村勘由)」研究成果報告書.
- 13) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2012) 平成 23 年度特別支援学校のセン

ターの機能の取組に関する状況調査について.

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1327787.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1327787.htm) <アクセス  
日 2014-02-07>

- 14) 障害のある児童生徒の教材の充実に関する検討会 (2013). 障害のある児童生徒の教材の充実について報告.

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1339114.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1339114.htm) <アクセス  
日 2014-02-07>